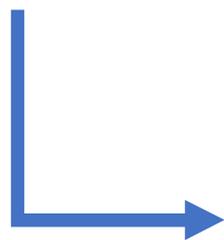




広島市の街並みと原爆ドーム（2015年12月）「NHKクリエイティブ・ライブラリー」 Imagine/Jo

被爆体験証言者 梶矢 文昭



被爆体験伝承講話

被爆体験伝承者 大石

講話の流れ

- 1 原子爆弾その被害の様子
- 2 梶矢文昭さんの被爆体験
- 3 次世代へヒロシマを繋ぐ

はじめに

1945年 8月 6日 (月) 午前 8時15分

1945年 8月 9日 (木) 午前11時02分

1 原子爆弾その被害の様子

上空600mでさく裂



B29 エノラ
矢賀駅上空 高

投下から43秒後



放射性降下物
(黒い雨)



(閃光) 熱線 爆風 (衝撃波)

放射性降下物
(死の灰)

放射線

(中性子線・ γ 線)

残留放射線

(誘導放射線)



半径
約2km

3000~4000度

秒速280m

天満川

本川

元安川

京橋川

爆心地
島医院

伝承者 (大



広島市上空から
 AP（照準点）を中心とした
 白線の円の直径は

撮影 米軍（1945年3月）
 寄贈 スティムソン・セシル
 作成 広島市立大学 橋本
 提供 広島平和記念資料館



広島市上空から
 散在する陸軍の拠点
 演習場及び軍港、軍

撮影 米軍 (1945年3月)
 寄贈 スティムソン・セ
 作成 広島市立大学 橋
 提供 広島平和記念資料

1. Army Transport Base	25%	16. Hiroshima RR Station	100%
2. Army Ordnance Depot		17. Railroad Station U/E	100%
3. Army Food Depot	35%	18. Bridge, debris loaded, intact	
4. Army Clothing Depot	85%	19. Bridge, 1/4 missing	
5. E. Hiroshima RR Station	30%	20. Large bridge, shattered, "	
6. U/E Industry	90%	21. Bridge, large hole W. side	
7. Sumitomo Rayon Plant	25%	22. Bridge, intact, tanks over it	
8. Kankwa Rayon Mill	10%	23. Bridge, " debris covered	
9. Teikoku Textile Mill	100%	24. Both bridges intact	
10. Power Plant	?	25. Bridge, 100% destroyed	
11. Oil Storage	On fire	26. Bridge, severely damaged	
12. Elec. Ry Power Sta	100%	27. Bridge, destroyed	
13. Elec. Power Generator	100%	28. Bridge, shattered, inoperable	
14. Telephone Company	100%	29. Bridge, intact, slight damage	
15. Hiroshima Gas Works	100%	30. Bridge, intact, severely damaged	

7月16日

米国がニューメキシコ州アラゴモード実験場での初の核実験（トリニティー実験）に成功

7月25日

8月3日以降に、**広島・小倉・新潟・長崎**の一つを下を決定

8月 2日

第1投下目標を**広島**とし、投下を**8月6日**とする

8月 6日

(日本時間)

1:45 エノラ・ゲイ号、観測機と撮影機を伴って

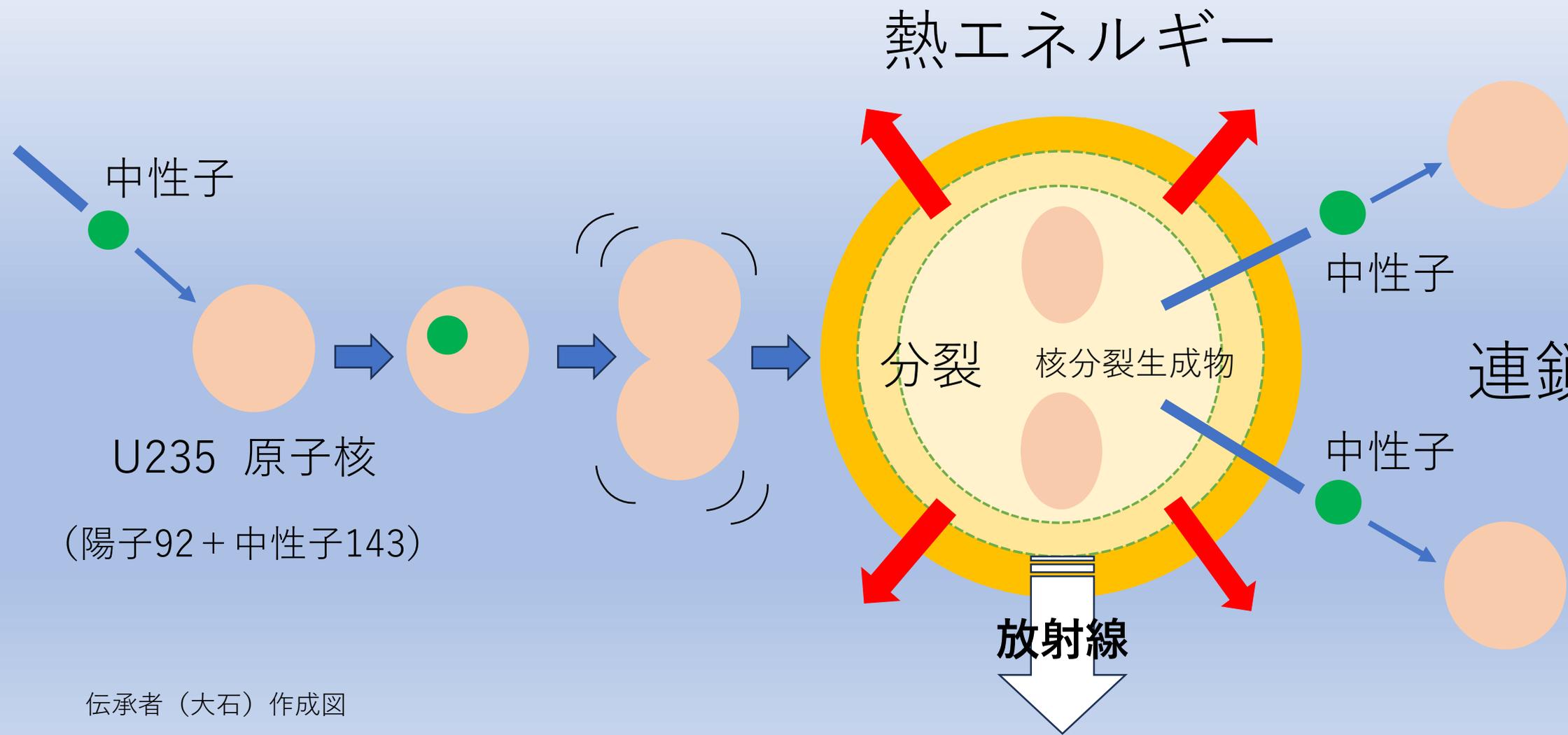
7:09 気象観測機1機が広島県上空へ、警戒警報

7:31 気象観測機は広島県上空を去り、警戒警報

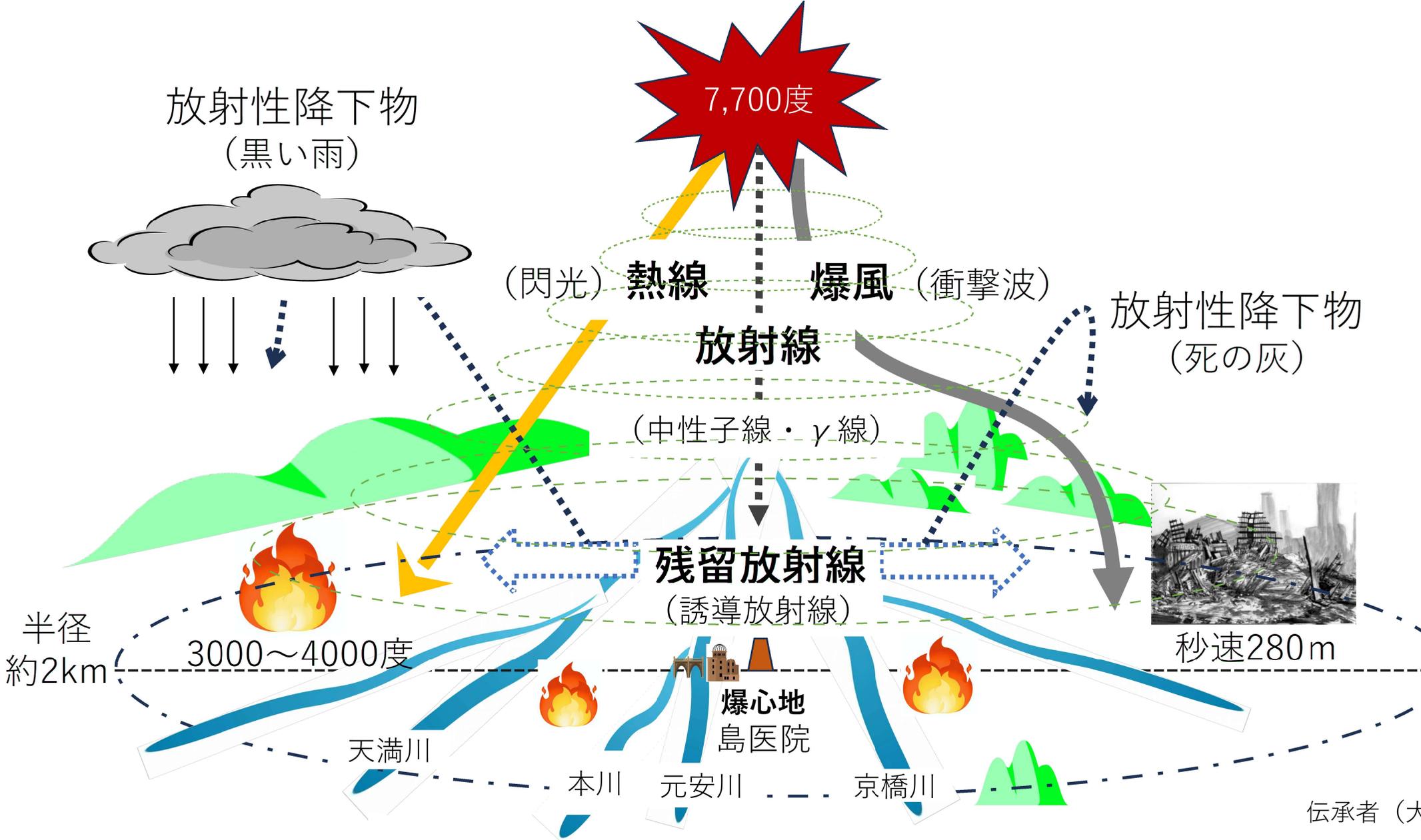
8:06 福山市西部の上空を西へと進む大型機3機

8:15 原子爆弾（リトルボーイ）投下（43秒後さ

核分裂



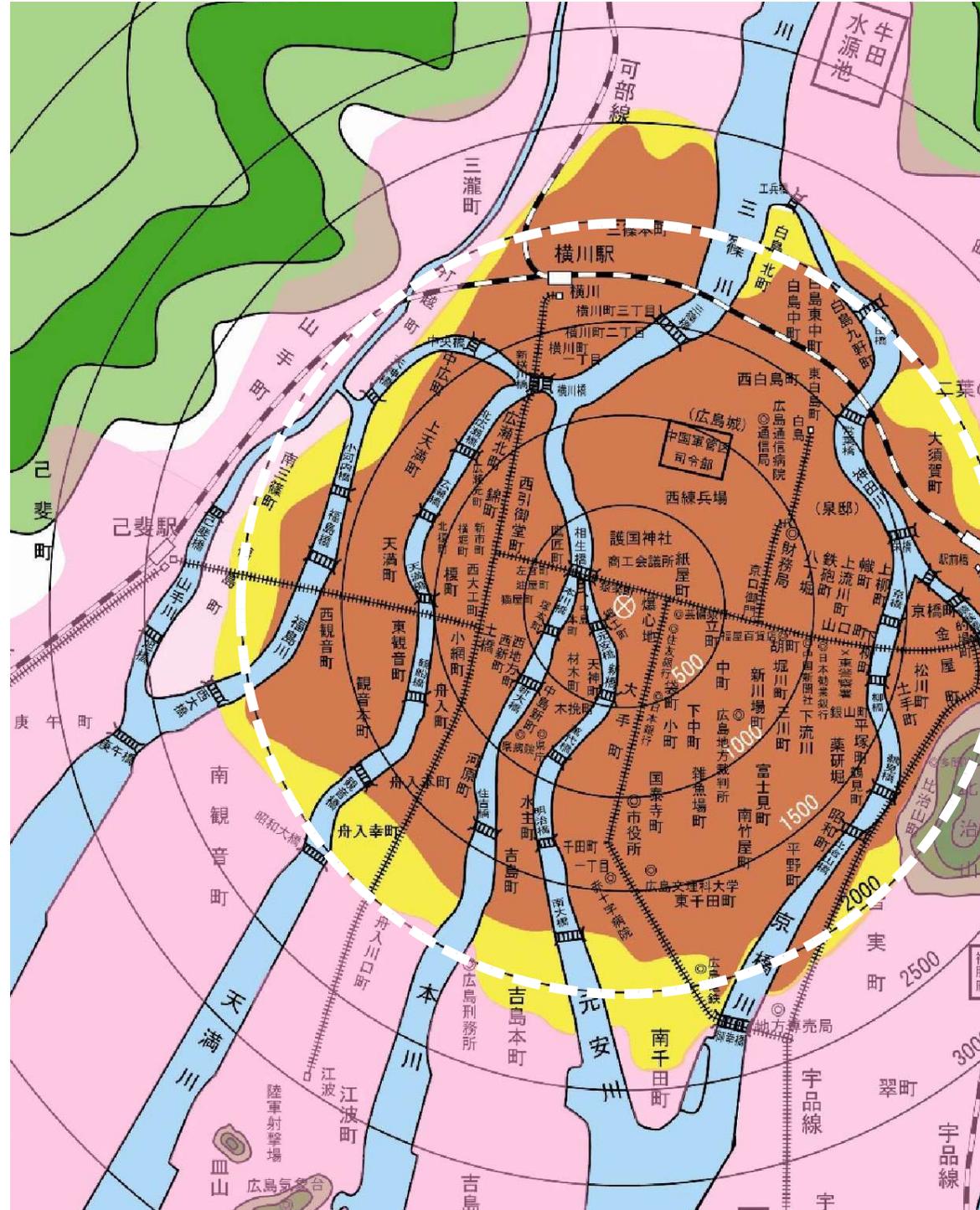
上空600mで炸裂



原子爆弾被災状況 広島市街説明図

-  色は全焼区域を示す
-  色は建物倒壊区域を示す
-  色は川及び海面を示す
-  色は山林を示す

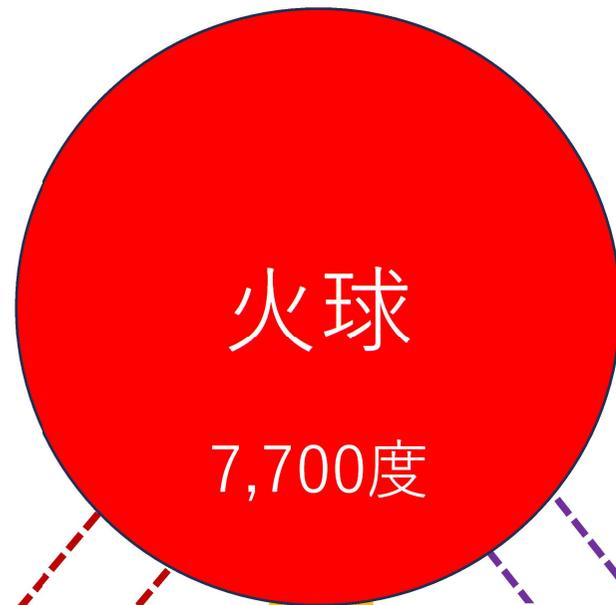
国立広島原爆死没者追悼平和祈念館作成地図から一部転載



熱線



撮影 尾糠 政美 提供 広島平和記念資料館



赤外線

紫外線

可視光線
(ピカ)

爆心地周辺の地表温度は3,000~4,000度



火傷

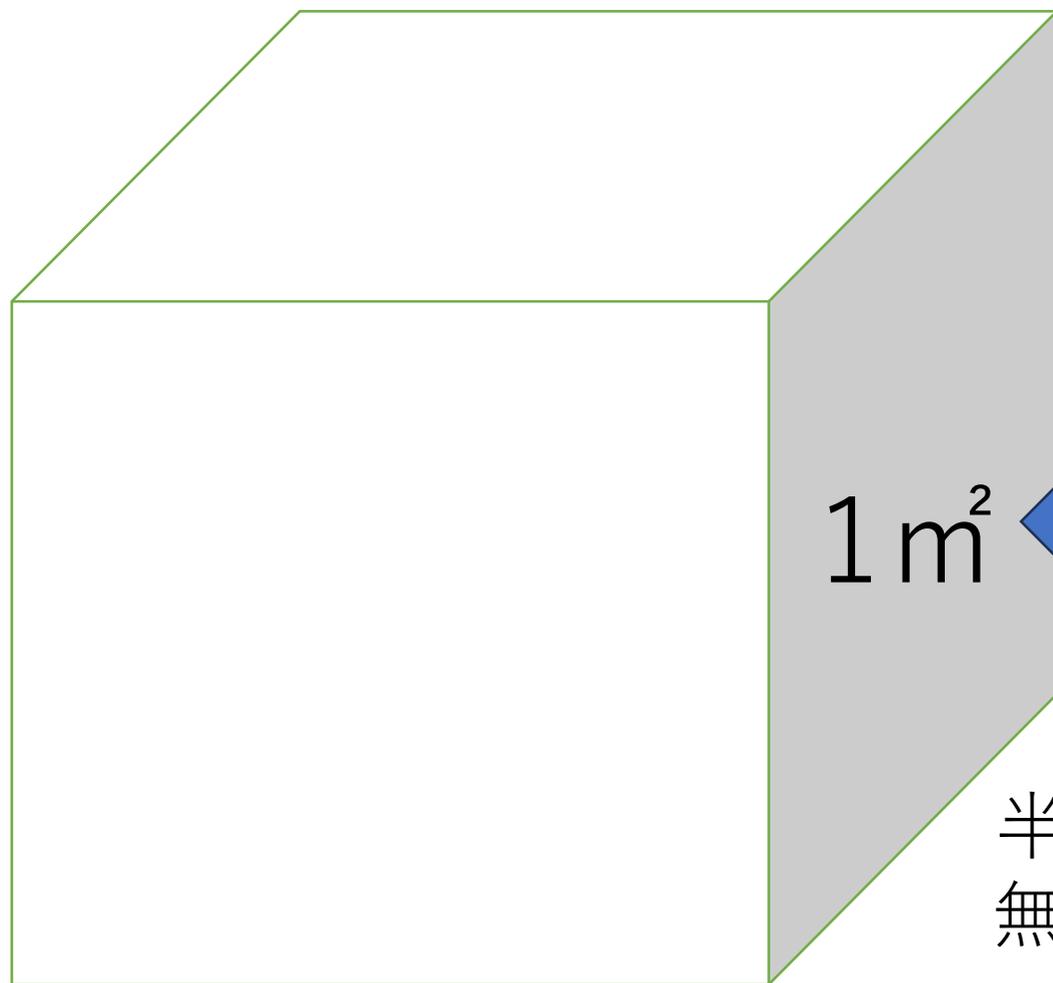
火事嵐

網膜損傷

伝承者 (

爆風

爆発点は超高圧高温、爆心地から100mの風速は約280



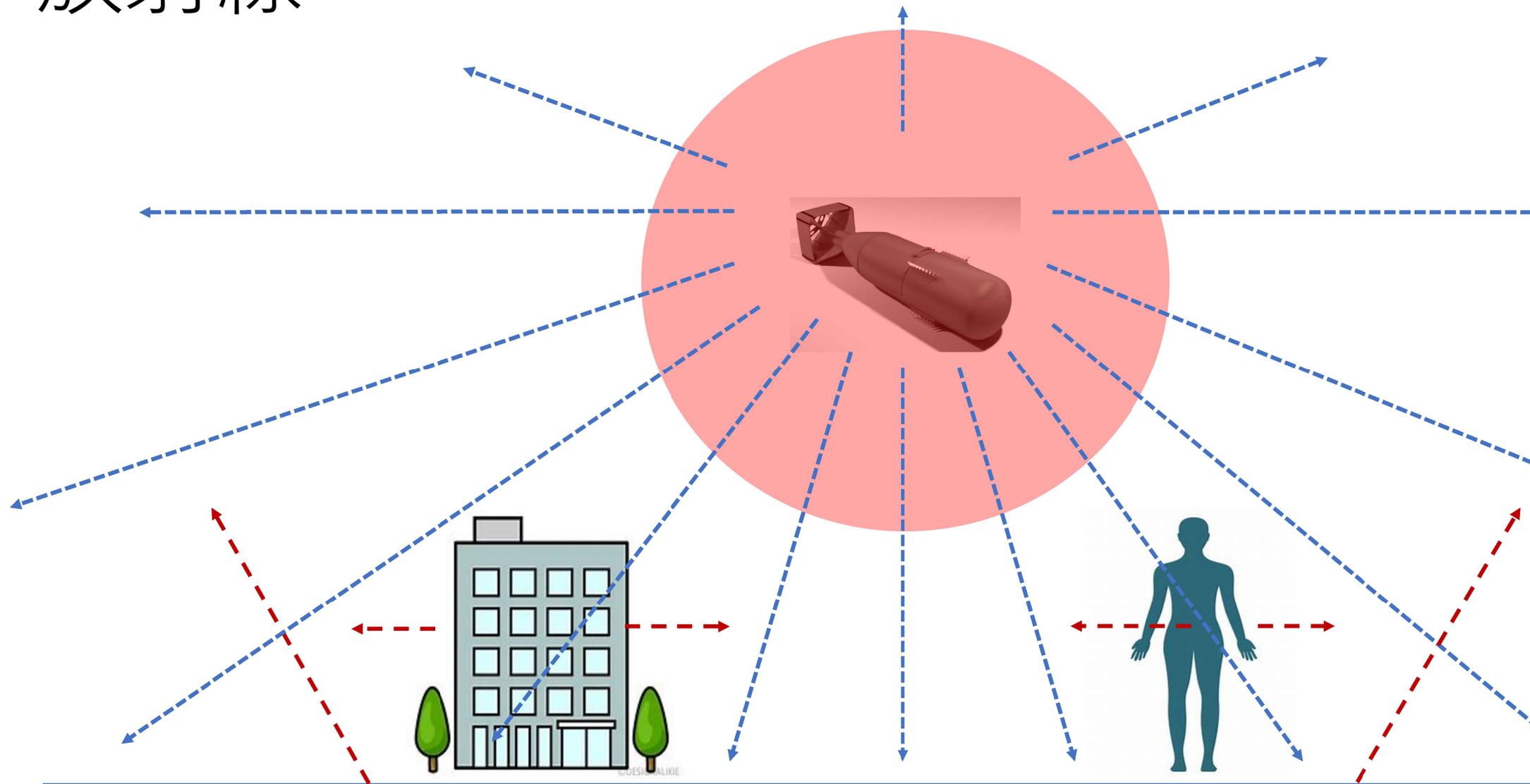
爆心地から500m

爆風圧 約11トン

半径2km以内の木造家屋はほぼ
無数のガラス片が飛び散る

放射線

初期放射線は核分裂の開始からさく裂後、1分まで



東京帝国大学医学部調査班による 爆心地からの距離と死亡率

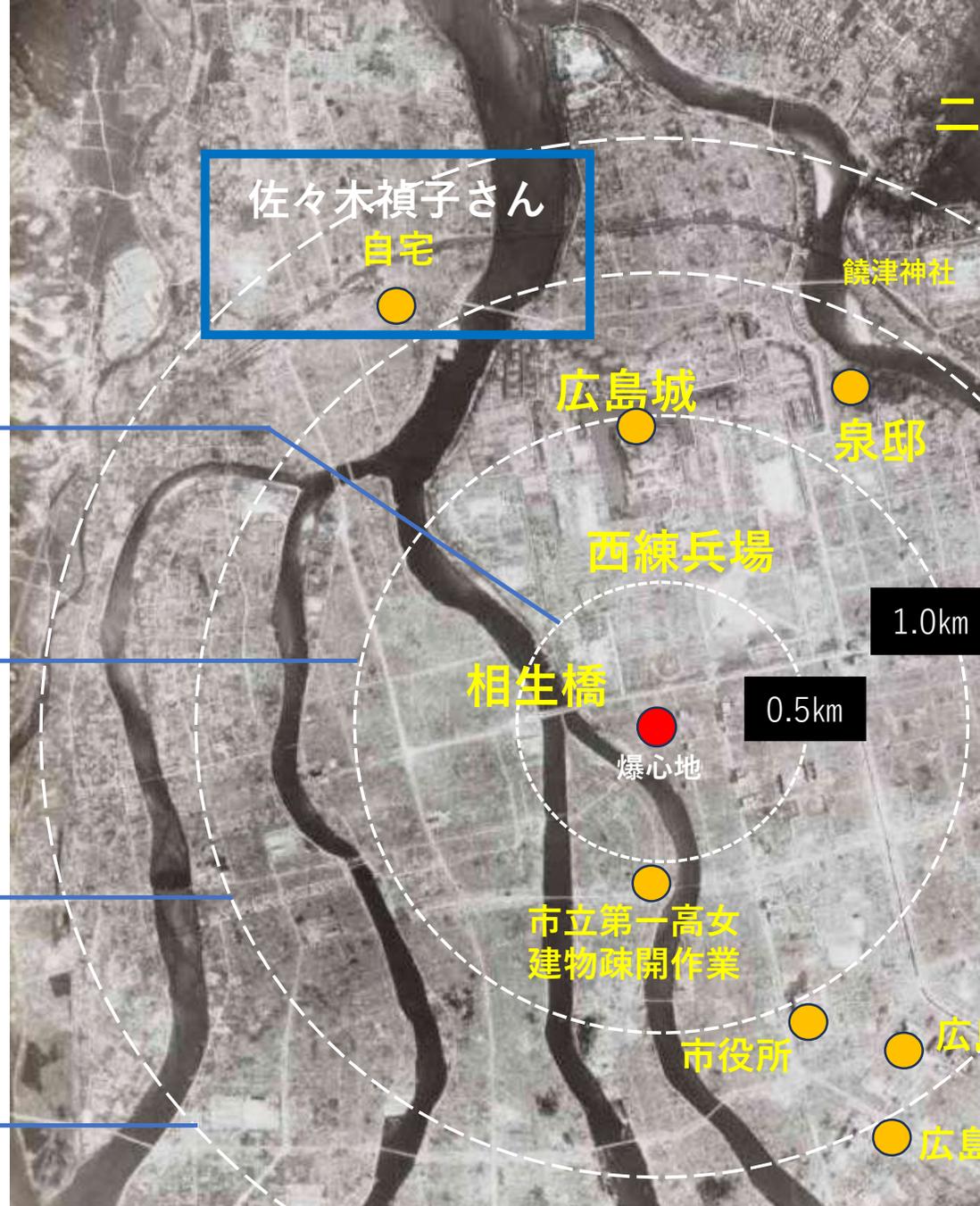
2 km以内の898人を調査（死者507人）
（％は1945年11月時点での推定値）

0.0km～0.5km 死亡率 **98.4%**

0.6km～1.0km 死亡率 **90.0%**

1.1km～1.5km 死亡率 **45.4%**

1.6km～2.0km 死亡率 **22.6%**



「中国新聞」（2023年2月8日）の記事から転載

撮影 米軍 寄贈 スティムソン・センター 作成 広島市立大学 橋本 健佑 提

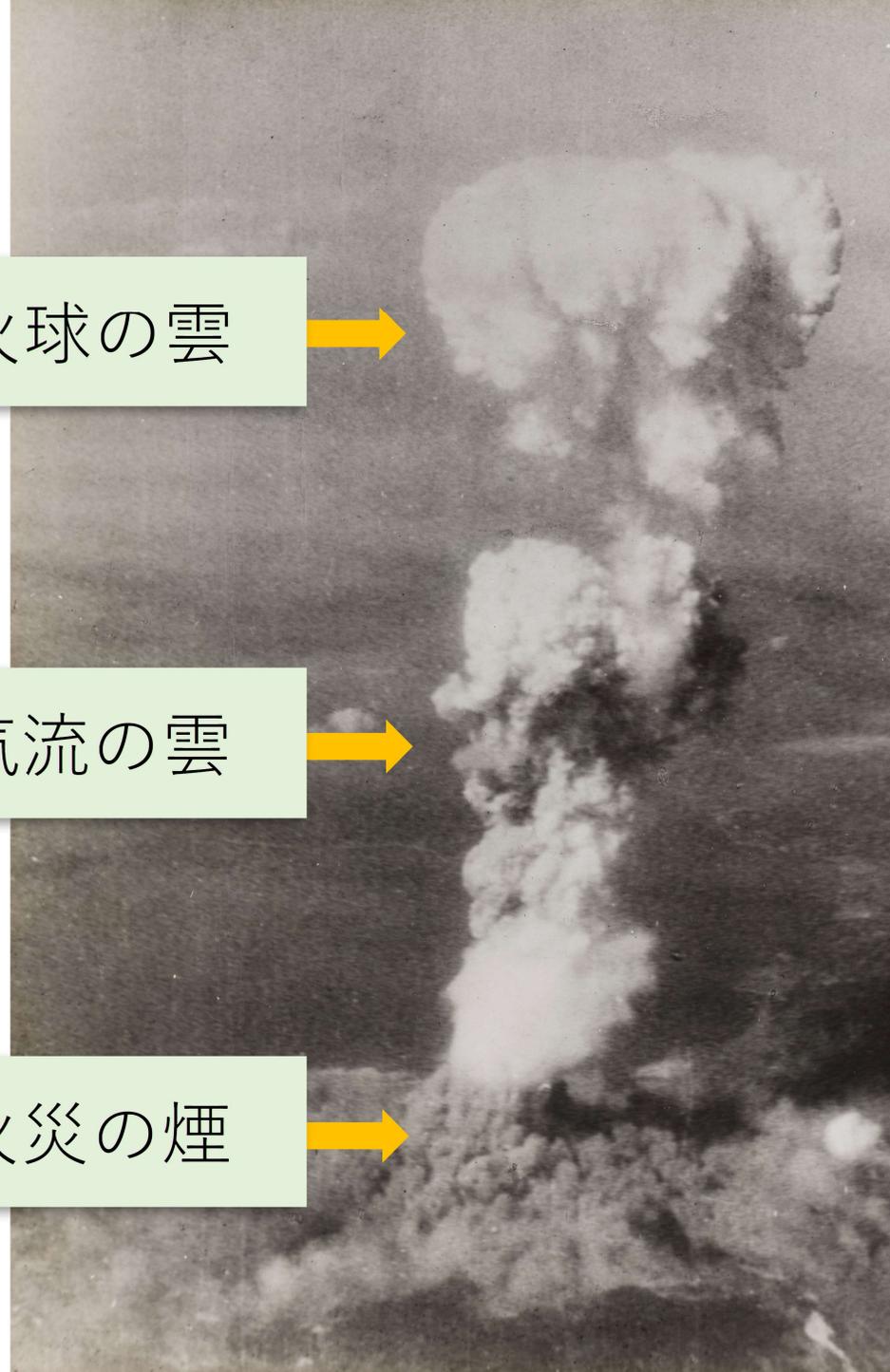
原爆きのこ雲の下で

原子爆弾の炸裂によって発生した火球の雲

爆風の吹き戻しや火災による上昇気流の雲

爆風で吹き飛ばされた土ぼこりや火災の煙

撮影 米軍 寄贈 スティムソン・センター
作成 広島市立大学 橋本健佑 提供 広島平和記念資料館

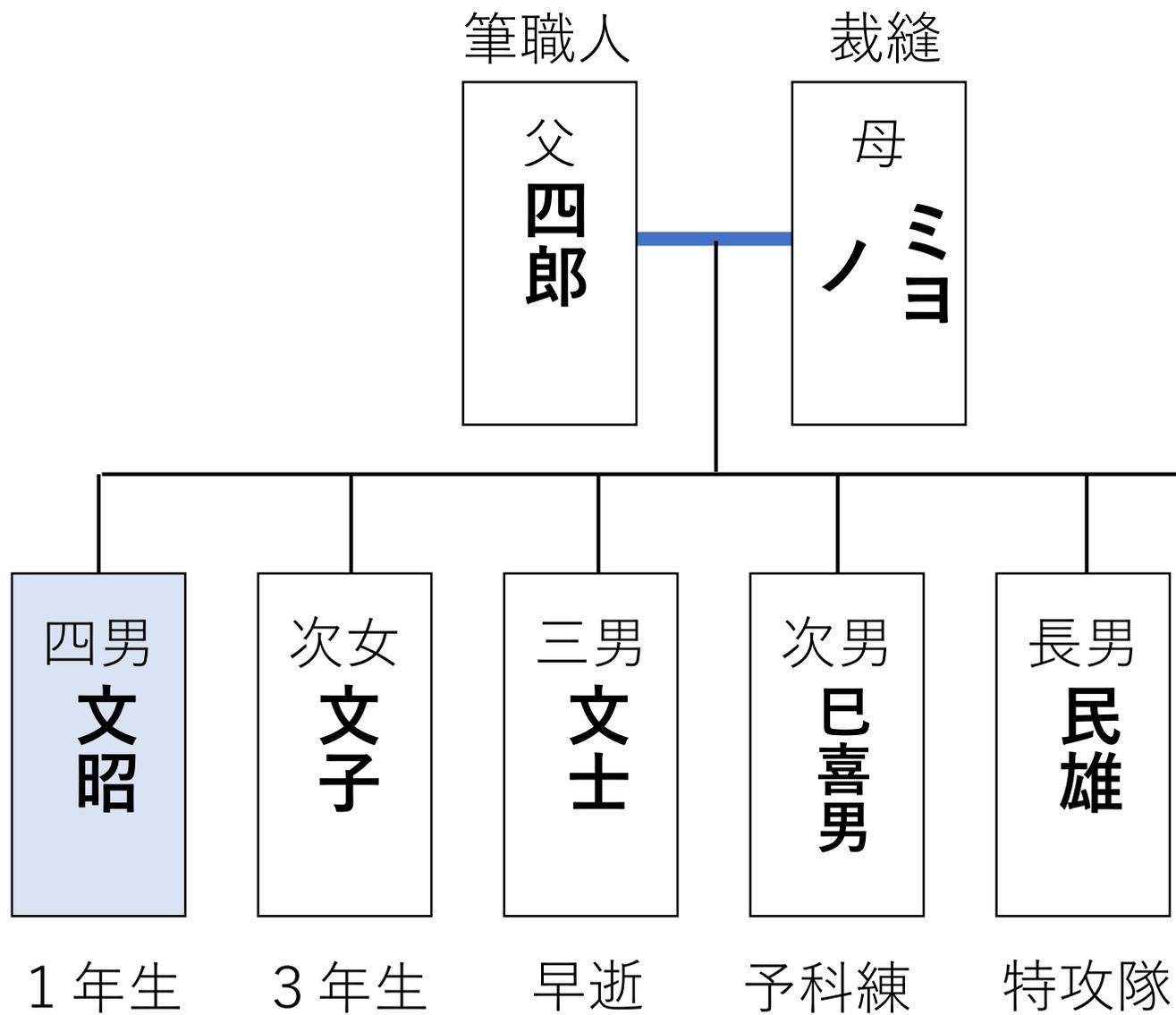


2 梶矢文昭さんの被爆体験

梶矢家



提供 梶矢 文昭



二つの疎開

建物疎開

学童疎開



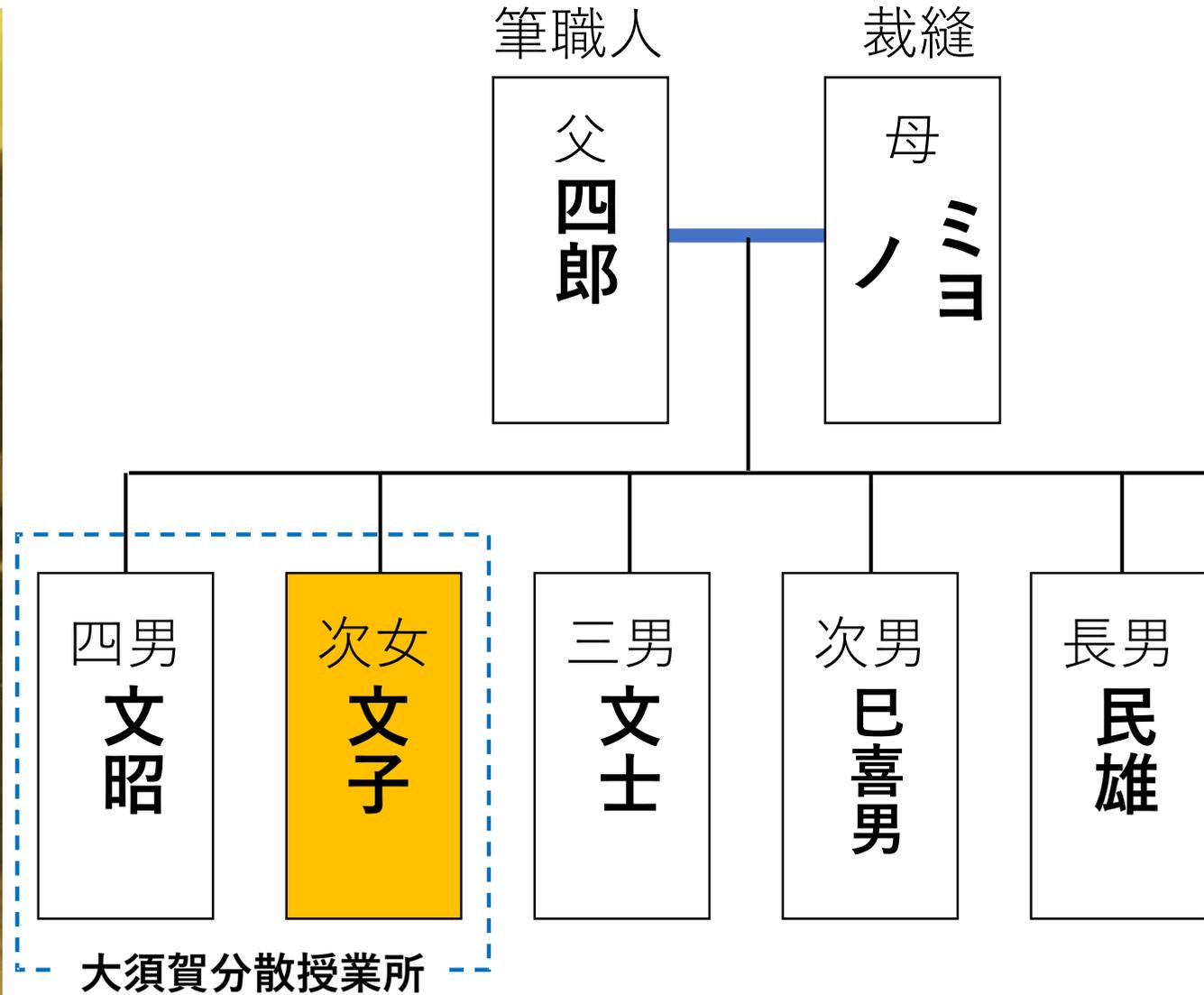
「現在の平和大通り付近での建物疎開」 作 濱田義雄 所蔵 広島平和記念資料館

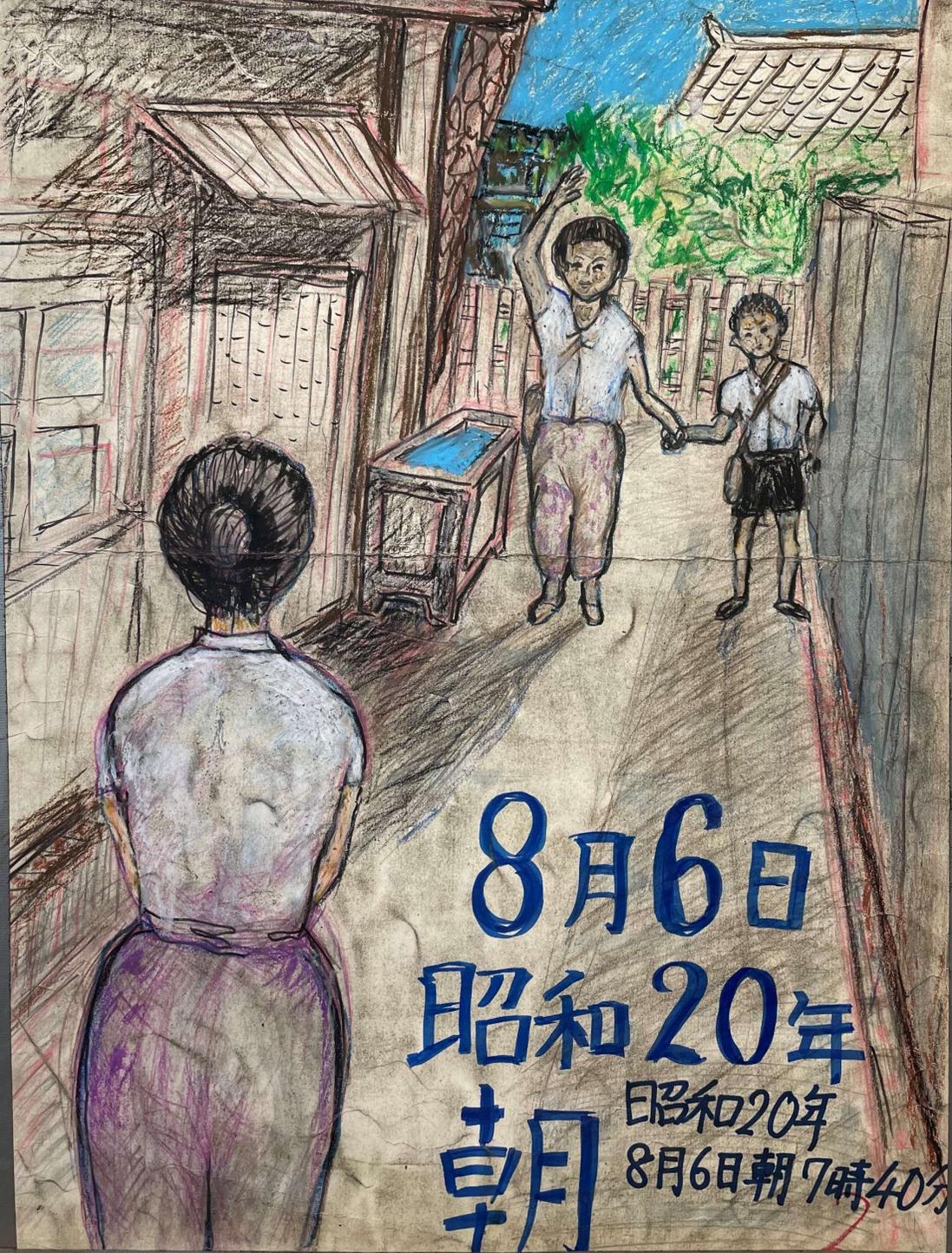
「可部に集団疎開した児童」 提供 広島市立白島小学校 所蔵

梶矢家

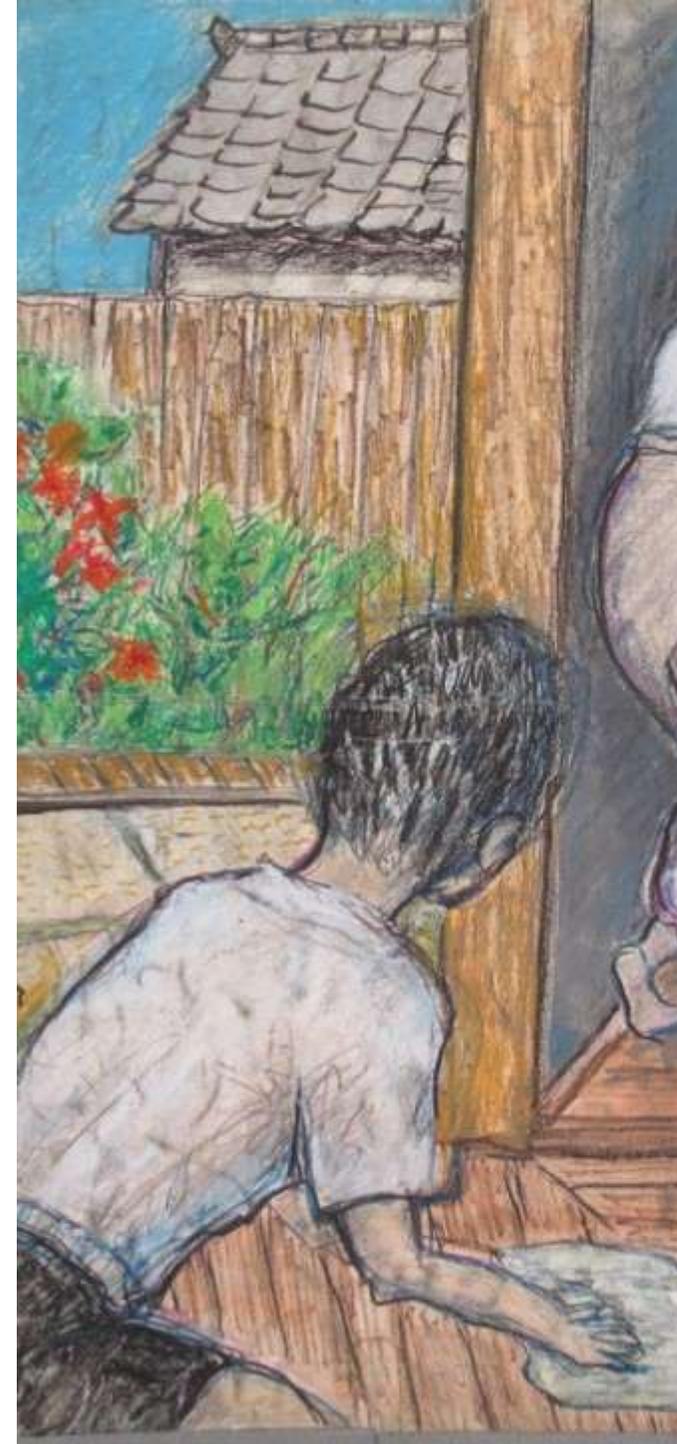


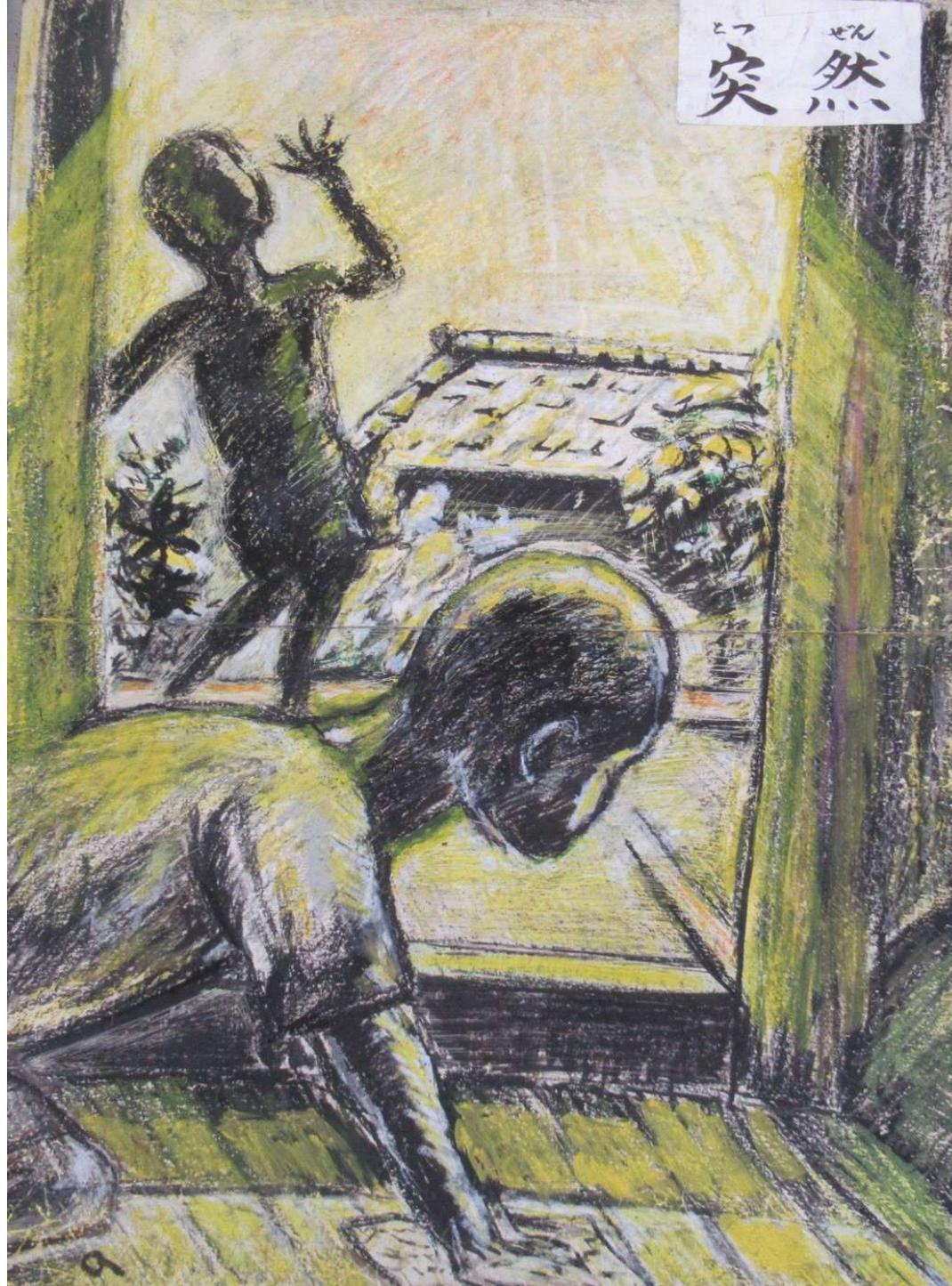
提供 梶矢 文昭





作 梶矢 文昭





作 梶矢 文昭

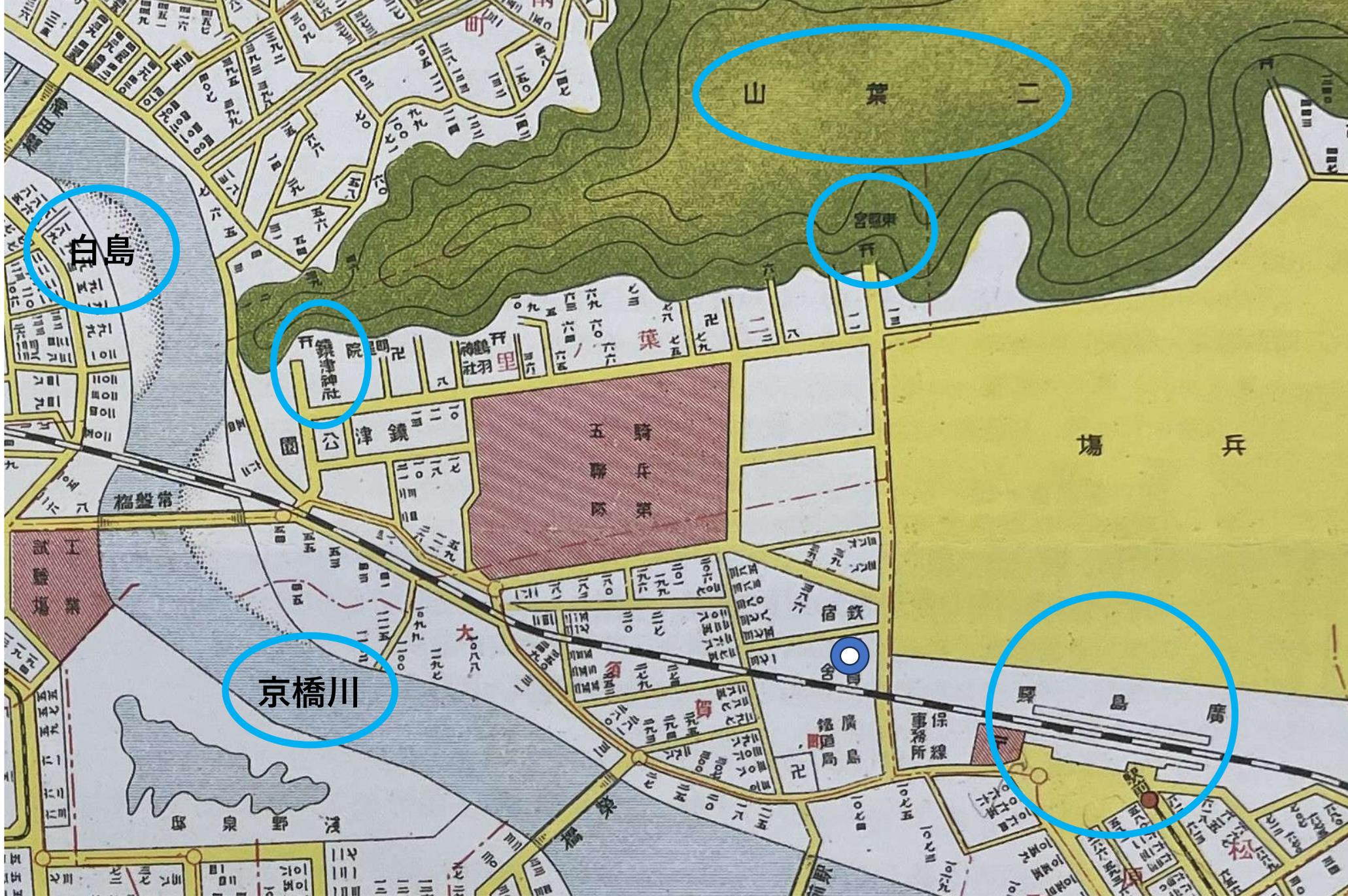


暗やみ 柱の下じき

作
梶矢 文昭



作
梶矢文昭



昭和14年7月 大廣島市街地図 (復刻版) 発行 あき書房



作
梶矢 文昭



二菜山

作
梶矢 文昭

れん べい
東練兵場



作
梶矢 文昭

瀬戸内海

黄金山

猿猴川

広島駅

東練兵場

広島東照宮

PANORAMMA OF HIROSHIMA. (1)

景全街市島廣

所蔵・提供
広島市公文書館





作
梶矢 文昭 氏



作
梶矢 文昭 氏



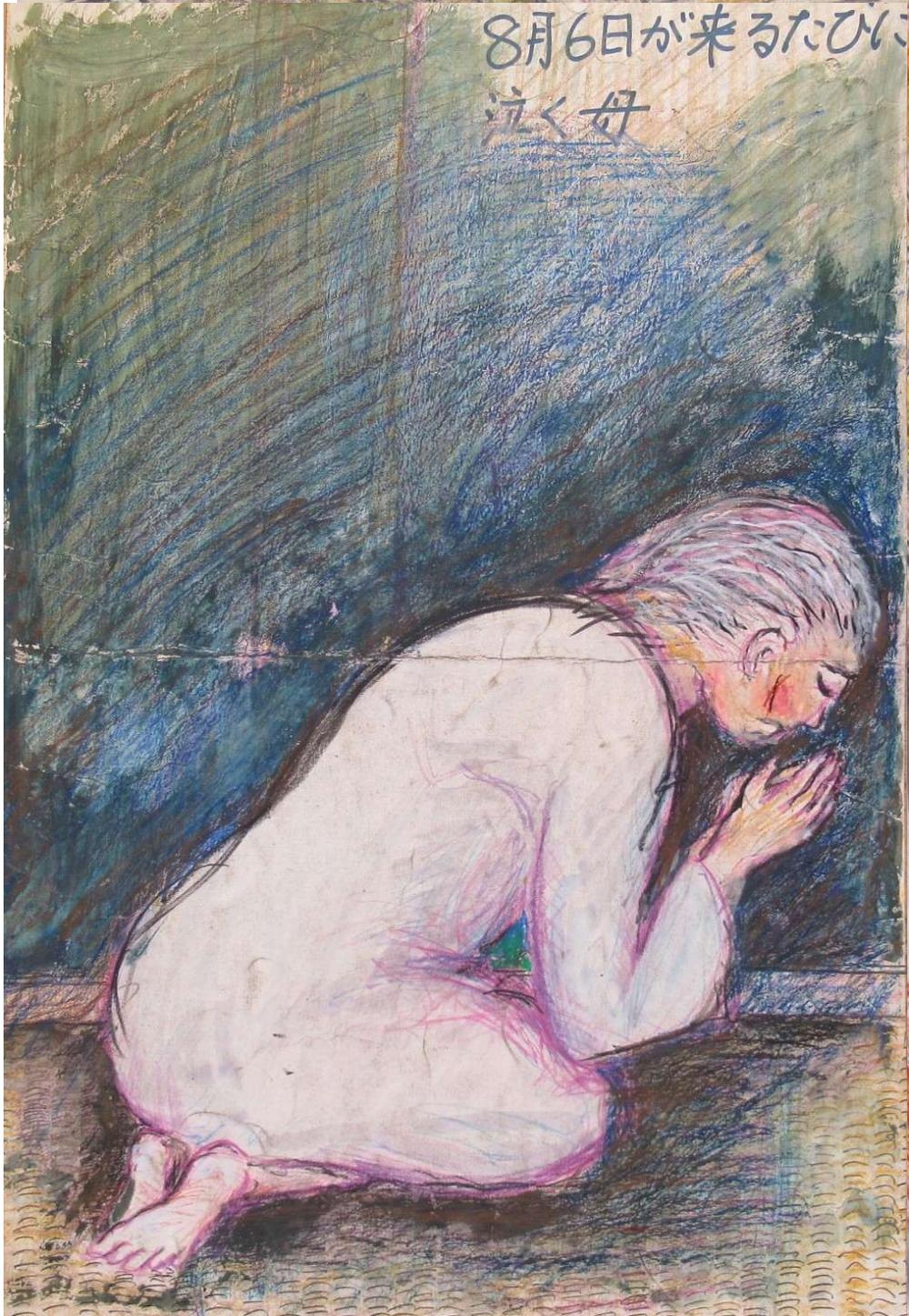
青空教室

広島市立荒神町小

1948年6月

所蔵・提供 中国新聞

8月6日が来るたびに
泣く母



作 梶矢 文昭



作 梶矢 文昭



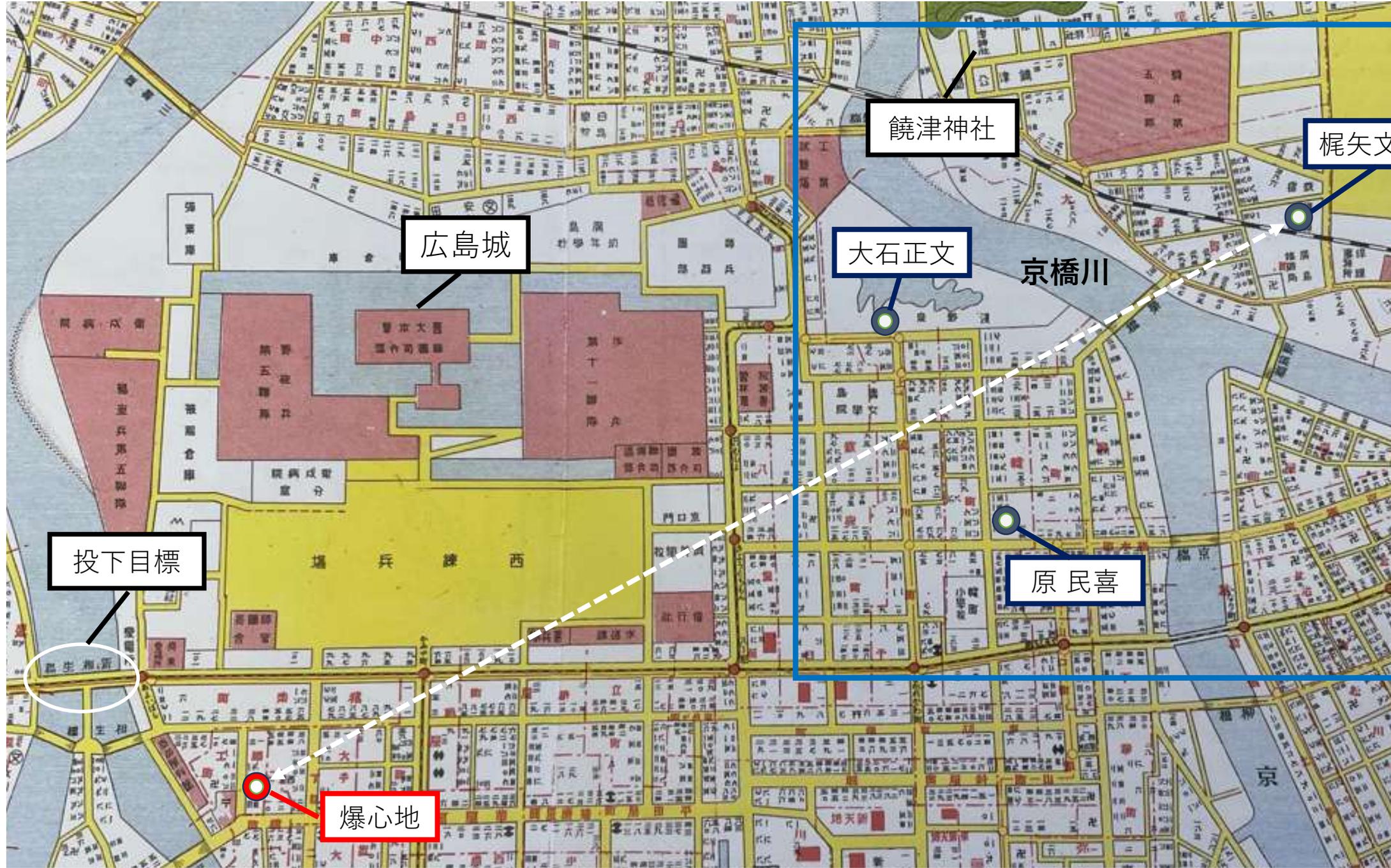
作 梶矢 文昭

「かけつけた 父は死体の姉を出し
なお 吾子 さがす 火が迫る

分散授業所から避難していることを知るよしもなく、和
つけだせなかった父は、合掌してその場を離れたとい

梶矢 文昭 著 「閃光と再生 原爆・教育・蝶と旅」 (2001年発行) から

原 民 喜 と 大 石 正 文



昭和14年7月 大広島市街地図（復刻版） 発行 あき書房

原 民喜 (1905年11月15日 - 1951年3月13日)

熾町の自宅便所内で被爆



所蔵・提供 広島市立中央図書館

猛火の京橋川河岸にて一
広島東照宮に避難して一



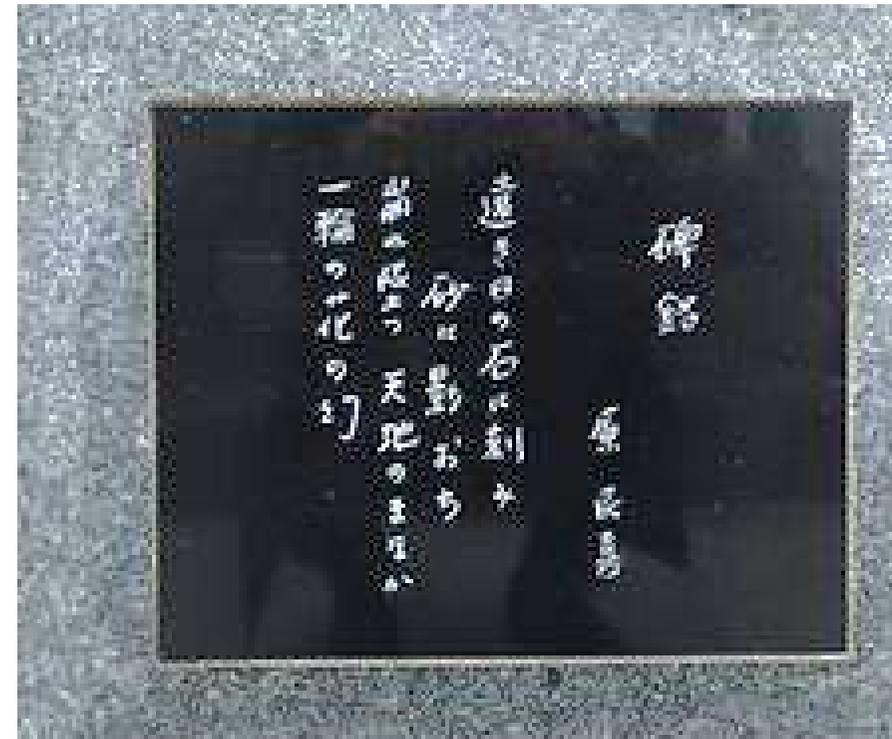
所蔵・提供 広島市公文書館



広島東照宮階段下の追憶碑 撮影 伝承者（大石）

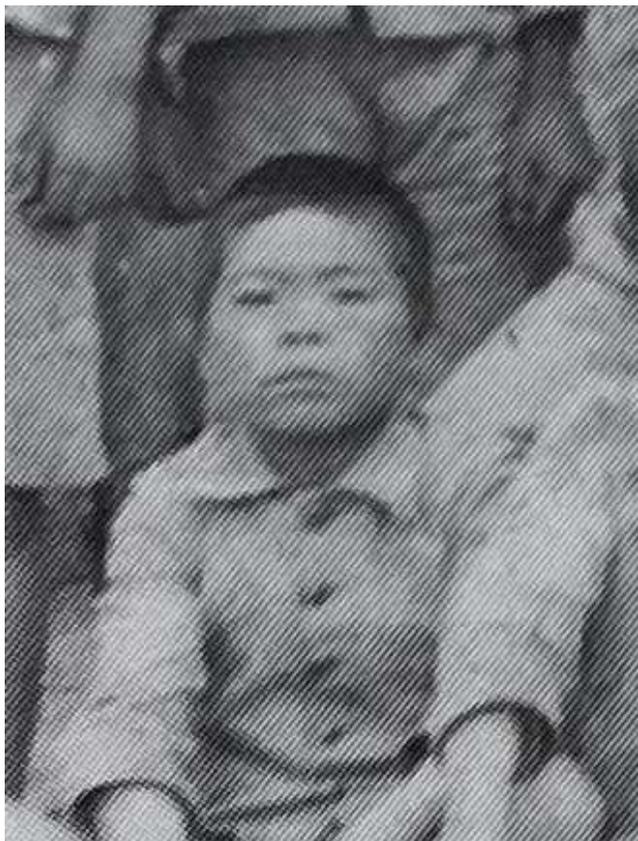
「コハ 今後生きノビテ
 コノ有様ヲツタヘヨ
 天ノ命ナランカ」

佐伯郡八幡村にて「夏の花」
 東京都杉並区で逝去（行年4



平和公園内慰霊碑 撮影 伝承者（大石）

大石 正文 (1931年2月11日 - 2007年5月6日)



1942年 西志和国民学校 6年生 (11歳)
所蔵 伝承者 (大石)



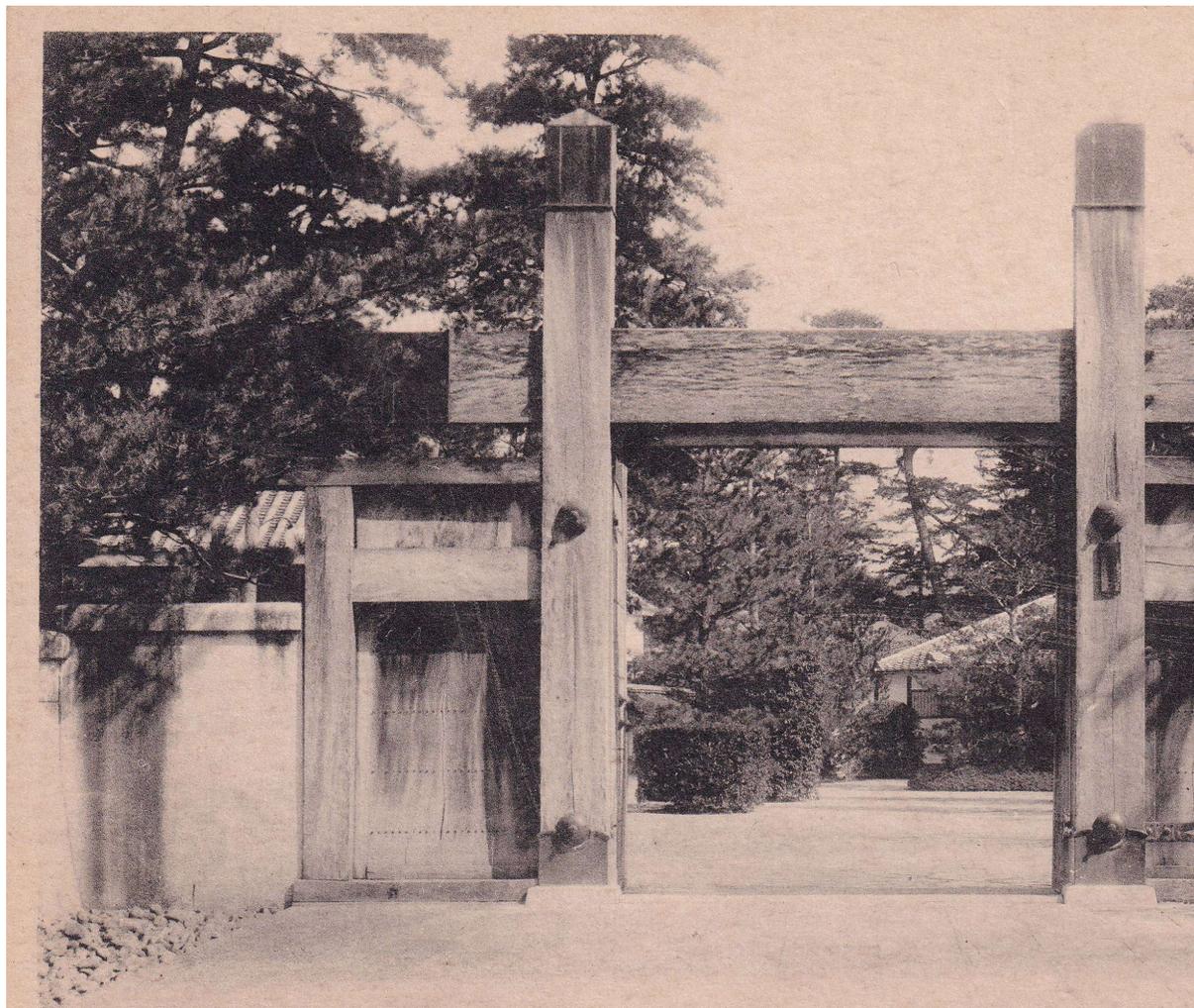
広島商業学校三年生
日

泉邸内の叔母宅で被爆
重体の叔母を連れて避難
京橋川を渡り東練兵場へ

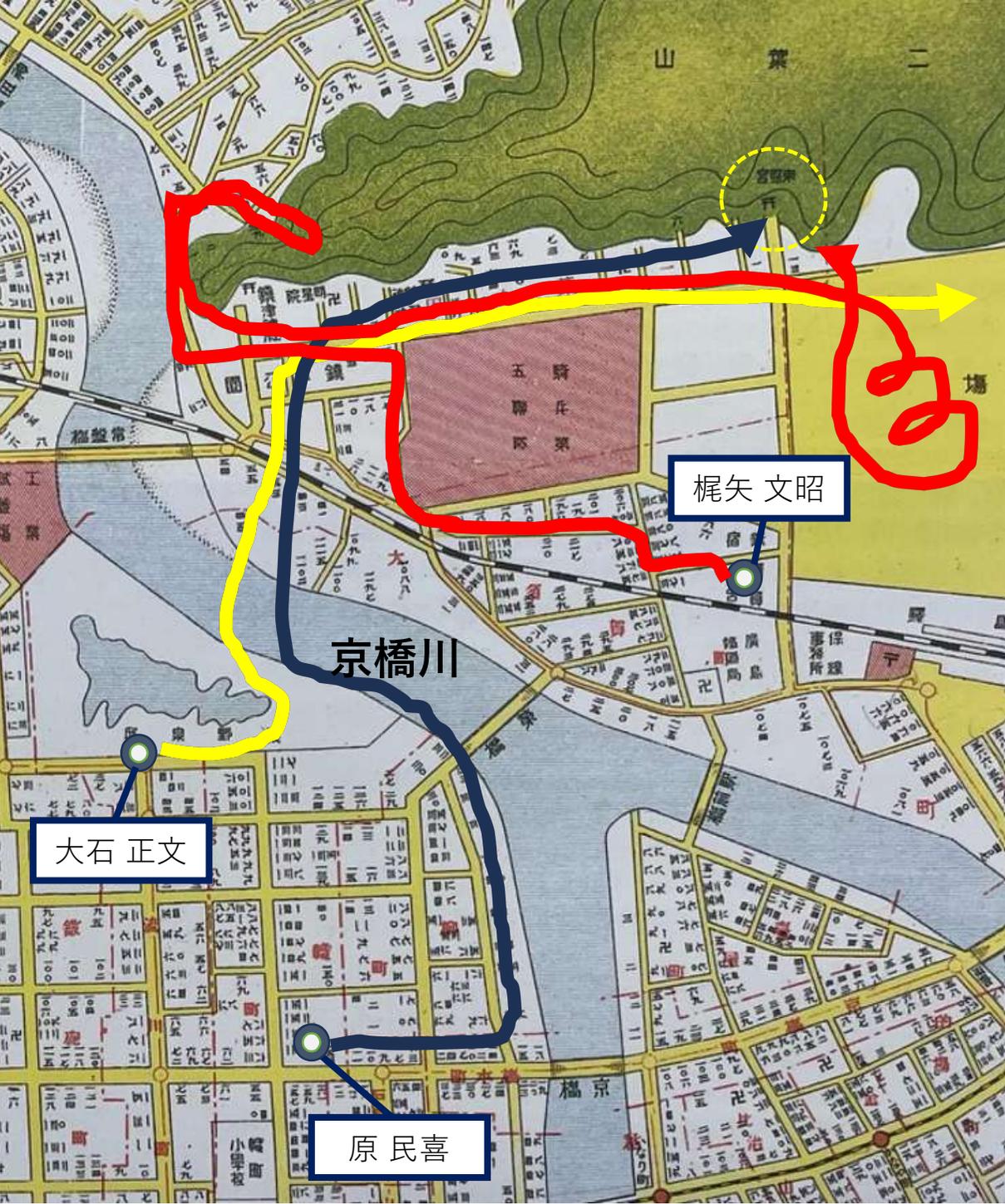


1955年（24歳）頃 所蔵 伝承者（大石）

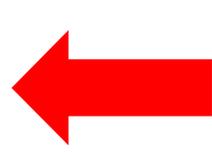
動員先（日本製鋼所）は電



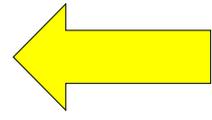
泉邸（現 縮景園） 所蔵・提供 沖本 春樹



避難ルート



梶矢文昭 (6歳) 小



大石正文 (14歳) 中



原民喜 (40歳) 小

3 次世代へヒロシマを繋ぐ



被爆体験を記

撮影 伝承

「三度許すまじ 原爆を世界の に」



原爆を許すまじ

ふるさとの 街やかれ
身よりの骨うめし 焼土い
今は 白い花咲く
ああ許すまじ 原爆を
三度許すまじ 原爆を
われらの街に

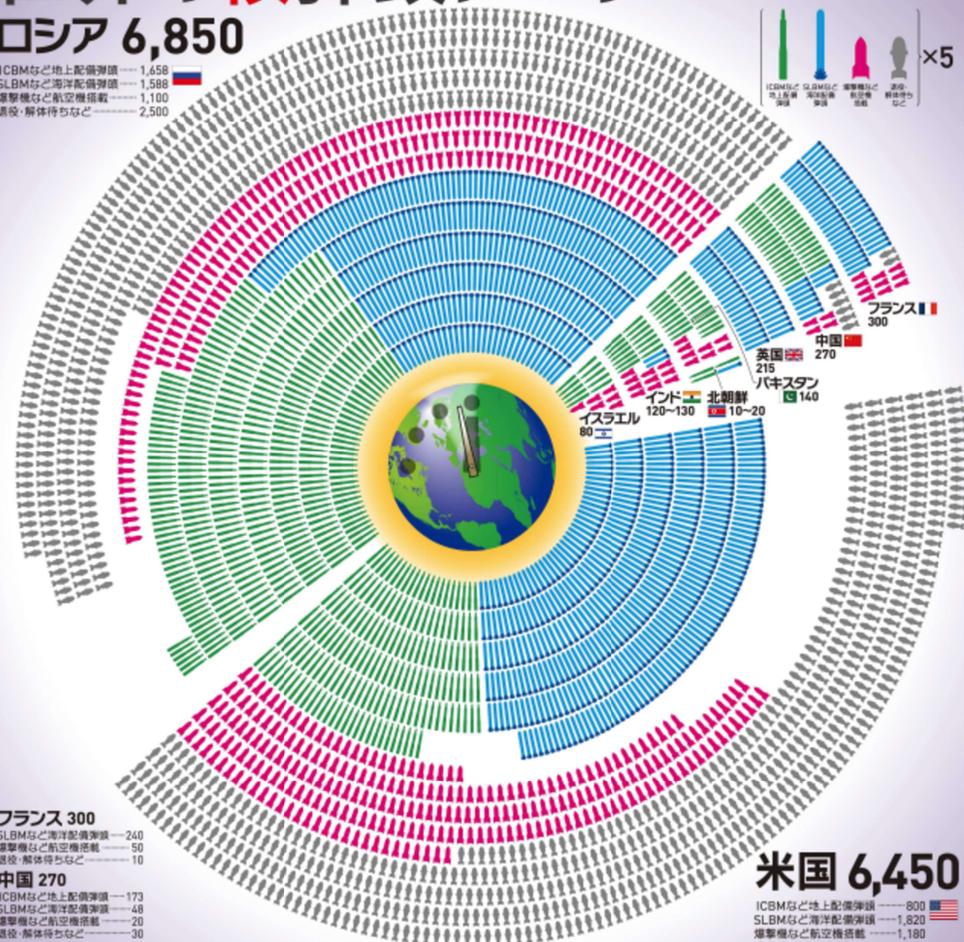
作詞 浅田石二 作曲 木下航二

被爆体験を語る梶矢さん 撮影 伝承者 (大石)

存在する限りは使われる 世界の核弾頭データ 2018.6

ロシア 6,850

- ICBMなど地上配備弾頭 → 1,658
- SLBMなど海洋配備弾頭 → 1,588
- 爆撃機など航空機搭載 → 1,100
- 退役・解体待ちなど → 2,500



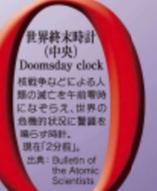
- フランス 300
 - SLBMなど海洋配備弾頭 → 240
 - 爆撃機など航空機搭載 → 50
 - 退役・解体待ちなど → 10
- 中国 270
 - ICBMなど地上配備弾頭 → 173
 - SLBMなど海洋配備弾頭 → 48
 - 爆撃機など航空機搭載 → 20
 - 退役・解体待ちなど → 30
- 英国 215
 - SLBMなど海洋配備弾頭 → 215
- イスラエル 80
 - ICBMなど地上配備弾頭 → 50
 - 爆撃機など航空機搭載 → 30
- パキスタン 140
 - ICBMなど地上配備弾頭 → 104
 - 爆撃機など航空機搭載 → 36
- インド 120~130
 - ICBMなど地上配備弾頭 → 68
 - SLBMなど海洋配備弾頭 → 2~14
 - 爆撃機など航空機搭載 → 48
- 北朝鮮 10~20
 - ICBMなど地上配備弾頭 → 7
 - SLBMなど海洋配備弾頭 → 7

米国 6,450

- ICBMなど地上配備弾頭 → 800
- SLBMなど海洋配備弾頭 → 1,820
- 爆撃機など航空機搭載 → 1,180
- 退役・解体待ちなど → 2,650

14,450

前年比:-450



核兵器廃絶長崎連絡協議会/長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA) 作成: RECNA核弾頭データ追跡チーム さらに詳しいデータは: <http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/> 数字は丸めてあるため、実際の合計数と異なる場合があります。

『世界の核弾頭』 ポスター

核弾頭総数

2018年	14,450
2024年	12,121

現役核弾頭数

2018年	9,251
2024年	9,583

長崎大学核兵器廃絶研究センター
(RECNA)

世界の現役核弾頭数 2024.6

配備されていても使える状態にある核弾頭と、配備に備えて貯蔵されている核弾頭の合計

ロシア

2018~24年の増減

↑ 34 (0.8% 増加)

現役核弾頭数 4,380

フランス

2018~24年の増減

→ 0

現役核弾頭数 290

中国

2018~24年の増減

↑ 260 (108% 増加)

現役核弾頭数 500

パキスタン

2018~24年の増減

↑ 30 (21% 増加)

現役核弾頭数 170

イスラエル

2018~24年の増減

↑ 10 (13% 増加)

現役核弾頭数 90

英国

2018~24年の増減

↑ 10 (5% 増加)

現役核弾頭数 225

北朝鮮

2018~24年の増減

↑ 35 (233% 増加)

現役核弾頭数 50

米

2018~24年の増減

↓

現役核弾頭数

存在する限りは使われる 9,583

(現役核弾頭数に退役・解体待ち弾頭数を加えた総数: 12,120)

↑ 332 (3.5% 増加)

2018~24年の増減

進 ん で い る

戦略核（大型）から戦術核（小型）

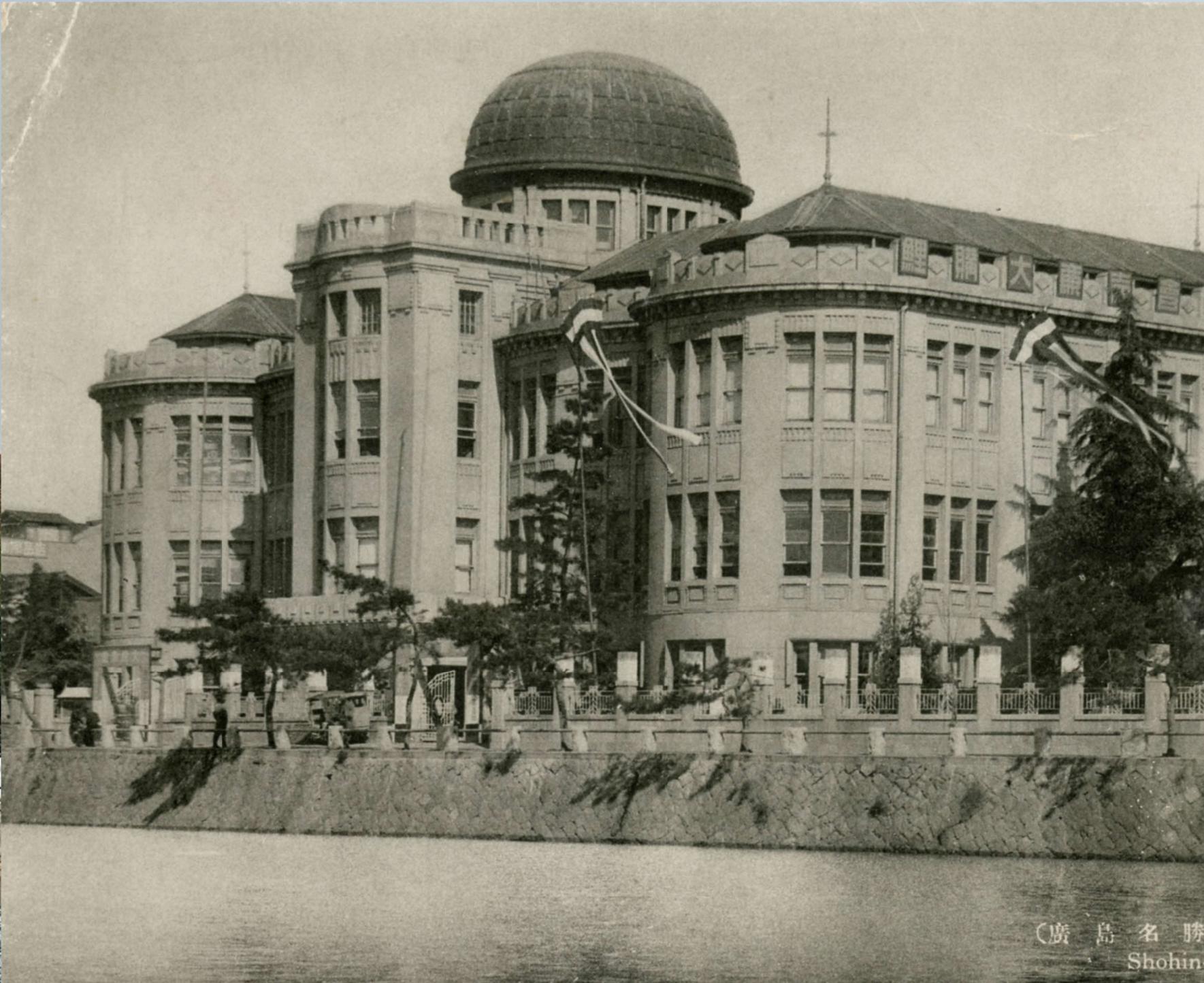
TNT（トリニトロトルエン） 爆薬の原料

- ◆ 広島型 → TNT換算で 約16kt (± 2 kt)
- ◆ 戦略核 → TNT換算で 約1,000kt (1mt)
- ◆ 戦術核 → TNT換算で 約0.5~100kt

基本抑止から拡大抑止そして核共有へ？



原爆死没者慰霊碑から望む原爆ドーム 撮影 伝承者（大石）



開館時の広島博物館

所蔵・提供 広島市立博物館

(廣島名勝
Shohin-)

ご聴講ありがとうございました